

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成 29 年度

事業報告書



公益財団法人ハーモニィセンター

目 次

| | | |
|--------------------------------|-----|----|
| 1. 概況 | ・・・ | 2 |
| 2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理 | ・・・ | 2 |
| 2－ 1 ポニーキャンプ | | |
| 2－ 2 蓼科ポニー牧場 | | |
| 2－ 3 相馬ポニー牧場 | | |
| 2－ 4 小貝川ポニー牧場 | | |
| 2－ 5 目黒区碑文谷公園こども動物広場 | | |
| 2－ 6 葛飾区水元中央公園子ども動物広場 | | |
| 2－ 7 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場 | | |
| 2－ 8 万騎が原ちびっこ動物園 | | |
| 2－ 9 板橋区こども動物園本園、高島平分園 | | |
| 2－10 上千葉砂原公園ふれあい動物広場 | | |
| 2－11 海老名ふれあい動物施設 | | |
| 3 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及 | ・・・ | 8 |
| 3－ 1 グランドポニースクール（新潟県長岡市） | | |
| 3－ 2 帯広畜大プロジェクト（仮称） | | |
| 3－ 3 治療的乗馬研究集会 | | |
| 3－ 4 馬から学ぶオリンピック・パラリンピック事業 | | |
| 4 川べり環境の整備及び活用の推進 | ・・・ | 9 |
| 4－ 1 カヤック教室・水辺でのプログラム | | |
| 4－ 2 河川騎馬パトロール | | |
| 5 国際文化交流、国際相互交流活動の推進 | ・・・ | 10 |
| 5－ 1 プロジェクトM | | |
| 5－ 2 日独青少年相互交流計画 2017 | | |
| 6 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信 | ・・・ | 11 |
| 6－ 1 機関誌の発行 | | |
| 6－ 2 夏キャンプ募集チラシの発行 | | |
| 6－ 3 WEB広報 | | |
| 7. その他 | ・・・ | 11 |
| 7－ 1 規程変更 | | |
| 7－ 2 馬の管理 | | |
| 7－ 3 会議等 | | |

1. 概況

6月の定時評議員会において、任期満了に伴う評議員、役員の改選があり、理事には実際の事業現場の事情を機関決定に反映させることを目的とした元職員、現職員を含めた4名を新たに迎え、評議員、監事はほとんどの方々に引続き見守っていただく形で新体制がスタートした。

代々木事務局にはカウンセラー出身の新職員を2名迎え、キャンプ実施回数を増やすと共に小貝川キャンプの復活、「部活動」という形での年齢制限なしの日帰り企画を開始、新たな賑わいを見せつつある。蓼科では第2牧場として連休・長期休みに蓼科湖で運営していたわんぱくポニー村を閉め、牧場の運営に集中した。また、馬の預託を受ける、全国乗馬倶楽部振興協会主催の指導者講習会に繋養馬を提供するなど、新たな動きが出てきている。小貝川では、乗馬に関しては内容によって上下はあるものの、乗馬利用者全体としては4年連続で上昇している。その一方で、乗馬以外のプログラムは縮小傾向にあるため、今後、川べりの環境を総合的に活用、楽しむという小貝川ポニー牧場の特徴を生かす運営を再考したい。各動物広場では、いずれも来場者の満足度を第一に考えつつも、施設や日常業務の見直し、事業所を越えた職員同士のやりくりで“効率”を意識した運営を進めた1年となった。ポニー同様、他の飼育動物の高齢化も問題になっていることに加え、希少動物については入手しにくくなっている状況下にあって、他団体・他社が運営する動物園・施設と連絡を取り合いながら動物の確保に努め、そうした取組、情報を各動物広場で共有し始めたことは次の団体運営にもつながる好ましい動きであった。こうした情報共有は、定例の会議以外にも各種委員会、会議の場で進められており、そのいくつかは執行部で設定・指示したものではなく、職員・事業所個々が抱えている課題解決の必要性からスタートした経緯があり、中堅層が中心となって情報を共有しあい、積極的に団体運営に参画する意志を具体的な行動で示し始めたことの現れである。

こうした動きは、前年度の大幅な赤字決算を受けての強い危機意識から発生したものでもあるが、財政的には、最小の人員配置、キャンプ実施を初めとした積極的な事業展開といった努力と保険や各種外注の徹底した見直しにより、黒字で年度を終えることができた。しかし、この黒字は臨時職員を含む職員人件費の圧縮や東京電力からの賠償金の加算もあってのことであり、いまだ手放しで喜べる状況ではない。

前年度取り掛かった全事業所で団体の財政状況を我が事として捉え、節約や作業効率を上げる工夫、事業所の枠を超えて協力し合う空気を一層醸成しつつ、体質改善と事業開発・展開には引き続き更なる工夫と努力を進めてゆきたい。

2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理

2-1 ポニーキャンプ

○ 計画との差異とその要因

今年度より小貝川ポニー牧場でのキャンプを実施。20名定員と小規模だったが年6回のキャンプを通してアットホームで参加者のやりたい事ができるキャンプが人気を得た。

引率職員を2名増員したため、秋に多くの事業を実施することができ、年間を通して多くの参加者を得ることができた。(長期7回増、短期1回増により217名増加)

○ 旅行業登録

ポニーキャンプの募集・実施に際しての必要性を感じ、研究を進めていた旅行業登録申請をし、2月に東京都に登録することができた。併せて一般社団法人全国旅行業協会に入会した。今後、機関誌や会員向け講習会を通じて専門的な情報を入手し、よりよいキャンプ実施につなげてゆく。

○長期キャンプ…学校の長期休業中(夏、冬、春)に実施したもの。(詳細はデータ集参照)

| | キャンプ名 | 実施回数 | 参加者 |
|------|---------|------|-----|
| ① | 蓼科ポニー | 14 | 692 |
| ② | 小貝川ポニー | 6 | 97 |
| ③ | 八ヶ岳登山 | 1 | 14 |
| ④ | 河口湖スケート | 1 | 24 |
| ⑤ | 南志賀スキー | 2 | 52 |
| 計 | | 24 | 879 |
| 28年度 | | 16 | 762 |

○短期キャンプ・・・週末、連休に実施したもの。

| | キャンプ名 | 実施回数 | 参加者 |
|------|---------------|------|-----|
| ① | 蓼科ポニー | 7 | 167 |
| ② | 奥秩父野外 | 1 | 16 |
| ③ | 河口湖スケート | 1 | 19 |
| ④ | ファミリーキャンプ(蓼科) | 6 | 131 |
| ⑤ | 六日町雪遊びスキー | 1 | 26 |
| 計 | | 16 | 359 |
| 28年度 | | 16 | 258 |

○受託キャンプ・・・外部からの依頼で実施したキャンプ。

| | キャンプ名 | 実施回数 | 参加者 |
|------|------------------------|------|-----|
| ① | 長岡っ子(蓼科) | 2 | 78 |
| ② | 東日本大震災被災地子ども達にキャンプを贈る会 | 1 | 7 |
| ③ | いちごっこキャンプ | 1 | 17 |
| 計 | | 4 | 102 |
| 28年度 | | 4 | 85 |

2-2 日帰り企画

新規企画として、小貝川の有効活用を目指し、2つの部活動を始動すると共に、「親子まつり」を実施した。

○事業結果

| | 企画名 | 実施回数 | 参加者 |
|---|----------|------|-----|
| ① | 登山部 | 5 | 57 |
| ② | 川部 | 5 | 44 |
| ③ | 親子祭り | 1 | 78 |
| ④ | 小貝川 1DAY | 1 | 9 |
| 計 | | 7 | 147 |



2-3 移動動物教室

天候により中止になったものもあるが、逆に前年度に中止になったものが行え、前年度と大差なく開催できた。先方が希望した時のみ予備日を設定している。

2-4 蓼科ポニー牧場

1. 宿泊団体の牧場利用

自主事業のキャンプ以外は、OB会や、広場キャンプでの活用が中心。ライダーズカップに向けて、関東の事業所で体験できない練習を求めて、蓼科の利用が意識されてきた。同時に学生の研修会での利用も目立つ。全14回。参加者数は258名。

2. 日帰り団体の牧場利用 (別紙)

3. 蓼科ジュニアポニークラブ (TJPC)

小1~中3が対象。高校生OBのボランティア参加可。月2回実施。年間を通した活動の大半に父兄が関わる。地元中心ではあるが、東京からの参加者あり。レベル・内容の維持、保護者一丸となつての活動であることを考慮すると、定員30名が妥当な規模だと考えられる。

月謝制 ¥5,500/1名。

| 計 | のべ参加者数 | 行 事 |
|-----|--------|---|
| 22回 | 300名 | 前後期保護者会 (年間活動・役員選任)、合宿 (海水浴) ライダーズカップ、八ヶ岳ホースショー |



4. 移動乗馬教室

計6回 22頭

5. 牧場レッスン・引き馬

牧場レッスンは前年度比プラス100と増加傾向にある。

6. 貸馬

全国乗馬倶楽部振興協会主催の障がい者乗馬講習会に馬の貸し出し依頼を2度にわたり受けた。

7. その他

(ア) デイキャンプ (参加者数20人)

三井の森別荘在住者を中心として、夏休みポニーキャンプに1日体験参加するもの。

(イ) ポニーステイ

長野県伊那市立伊那小学校にシルフィードを、諏訪高島小学校にゴマシオを無償貸与した。

【まとめ】

2017年度はレッスン・引馬の数が増加傾向であった。キャンプのない週末にOB会、個人利用があった。



2-5 相馬ポニー牧場

施設の利活用という点では、南相馬市地域復興プログラムにおける除染物質の仮置き場として前年度に引き続き放牧場を、南相馬市内の通所施設運営団体に職員宿舎を貸与した。

長期的展望については、前年度末（29年3月末）以降、3度にわたって大野理事長初め役職員が牧場創設以来応援し続けてくださった地元関係者と懇談を持ち、30年1月には「原発事故の影響から、震災前のようにポニーキャンプ等の事業を実施することは不可能であり、施設も解体する方向で進めたい」旨の説明をして理解をいただいた。解体に要する資金調達のための調査と共に、対東京電力賠償請求について、東電側が設定する対象期間の支払いが終了したことから、原子力損害賠償紛争解決センターに対して和解仲介申立てを行なう準備を開始した。

2-6 小貝川ポニー牧場

今年度は本部との連携を強化して、キャンプ、部活動などの新事業を試みた。そのため、初めて小貝川を訪れる方が増え、利用して頂いた方からは概ね好評の声を頂いている。



ポニー教室でも低学年7家庭、10名の入会があり、教室のべ参加者数で前年度比プラス500名という、今後は楽しみな結果となった。

こうした新たな利用者受入、プログラム開発が進んだ反面、移動乗馬教室のための馬派遣を他事業所をお願いし、牧場での乗馬レッスン等を一部お断りするといったこともあったので、職員、馬の体制を整え、既存のつながりを大事にしながらの運営に努めたい。

若いポニー2頭は順調に調教が進み、ポニー教室や移動乗馬教室で活躍している一方で、老齢馬問題が依然として残っている。

2-7 目黒区碑文谷公園こども動物広場（指定管理者5年指定の4年目）

日々、地域住民との協働や公園活性化等の視点を大切にしながら、「何度でも行きたくなる場所」、「親近感や安心感のある場所」を目指し、施設運営を行った。基本事業である小動物とのふれあい、ポニー乗馬（引き馬）、ポニー教室（個人・団体）の他、職場体験受入（通年）、ポニーまつり（5月）を実施した。利用者数は、28年度弁天池事件時の落ち込みからは回復したものの、天候（例年以上の暑さや雨天の多さなど）の影響を受け、27年度時には届かなかった。ご年配者も足を運びやすい環境作りを意識的に行い、「親子動物クラブ」や「ミニイベント」、「ポニー教室参観」、ポニー教室（個人）参加者に好評である「ポニーキャンプ」を積極的に実施するなどして利用者の要望にも応えながら、子どもからご年配者まで、地域の居場所としての広場ファンをふやしてゆきたい。

2-8 葛飾区水元中央公園子ども動物広場(ポニースクールかつしか)(受託 1年契約)

昨年度までかつしかポニーキャンプを年2回シリーズで実施していたが、好評のため29年度は年3回に増やした。4月16名、9月18名、2月21名の参加者で実施した。

また、ライダーズカップへの参加も14名あった。キャンプやライダーズカップなど、日頃の教室で培った力を外で発揮する場面が多く見受けられた。今年度はクローバー牧場との軽乗交流やドイツとの交流事業もあり、軽乗への期待も高まってきている。

平日の教室では、安全確保のために曜日ごとに乗馬を行う方式になって2年。体操や作業の曜日には教室に来なくなる子も出てきている。乗馬をしない日にも来なくなる教室作りが今後の課題である。体操やレクリエーション、子ども達との作業の充実を目指していく。通常事業に加えて、以下の特色ある事業を行った。

○ 特別活動他

- ・ 「介護予防シニア乗馬」：葛飾区役所高齢者支援課より受託。葛飾区在住65歳以上の方が対象。隔週で行い、3回で1シリーズ。体操・乗馬練習に取り組んだ。(年3シリーズ実施)
- ・ 「ふれあいスクール明石」：葛飾区内の不登校児(小4～中3)が対象。月1回ポニースクールで、体操・馬房掃除・乗馬練習・手入れを行う。(月1回、年7回実施)
- ・ 「水元特別支援学校教員研修」：初年度教員が来場し、馬房掃除、乗馬体験、引き馬練習を行った(年1回)。学期の締めごとに教員が来場し振り返りを行った。
- ・ 「新宿フェスティバル」：新宿地区が主催するイベントに依頼を受け移動乗馬を行った。
- ・ 実習生受け入れ：麻布大学の学生2名を10日間実習生として受け入れた。
- ・ 卒業論文協力：帝京科学大学、中央大学、東京農業大学の3名の卒業論文に協力した。



2-9 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理者 5年指定の4年目)

4月16日に行われた、「春のふれあい動物フェスティバル」では、天候に恵まれ、20年以來、9年振りに利用者数12,000人を記録した。29年度のよいスタートとなったが、9～10月にかけて上陸した台風の影響により、利用者数が例年の平均を下回る結果となった。それでも、プログラムの開始時間を早める、終了時間を遅らせる等の工夫を重ね、利用状況の回復に努め、利用者数は昨年と及ばぬものの、新たな運営形態の模索につながった。

展示動物の高齢化に伴い、動物種の減少が懸念されていたが、「横浜ズーラシア」よりミーアキャットを5頭、「羽村市動物園」よりケヅメリクガメ1頭貸与、「雪印こどもの国」よりコウライキジ3羽譲渡いただき、動物補充が進展した。輸入規制が厳しく、動物の購入が困難な昨今において、他の動物施設との相互協力により動物補充が進展したことは大きな成果と言える。また、8月に行われた「指定管理者評価会」での「他動物園との交流を増やし、連携を取って欲しい」という委員からの要望に応えることが叶った。

提案事業として行っている「ビストロモーモー(牛のエサやり体



験)」では、牛の入替に伴い、プログラムの実施が困難となったが、代案として「モンキーランチ（リスザルのエサやり体験）」と「大きいポニーにニンジンあげ」を実施。両プログラム共、利用者からは大変好評で、収入面での貢献もできた。

＊各種プログラム

基本事業であるポニー乗馬、小動物とのふれあい、動物の展示、子ども動物クラブ、動物広場フェスティバルの他、以下の指定管理者提案事業を実施した。

〈有料のもの〉

1. 子どもポニーボランティア
2. 親子二人乗り乗馬(引き馬)
3. 親子ポニー教室
4. 出張動物教室
5. さがみはらっこポニーキャンプ
6. 動物へのエサやり体験

〈無料のもの〉

1. 羊毛クラフト
2. 特別プログラム
(雨天特別プログラム、
大人のポニー乗馬など)



2-10 万騎が原ちびっこ動物園（受託 4年契約の3年目）

29年度は、野毛山動物園、横浜市環境創造局動物園課により、獣舎内のモルモットの飼育部屋を一新していただいた。以前は多頭飼育が出来る部屋が少なく、たくさんのコンテナを使って小分けに飼育していたため、作業効率が低かった。今回の改良によって部屋のスペースを有効活用出来るようになり、作業効率が上がり見栄えも格段に良くなった。同様に、元々用具倉庫として使用していた部屋も、動物を飼育出来る部屋に改良していただいたため、飼育可能数が格段に増えた。

また、エアコンも完備されたので、若い個体や高齢個体の体調管理もしやすくなった。こうしたことは、本園である野毛山動物園や管理関係者との良好な関係により、修繕要請といった現場の声を反映していただいた結果である。

運営の工夫としては、閑散期の必要スタッフ数を従来の3人から2人に減員したことで、休暇を取りやすくなり、人件費抑制にも貢献することができた。

2-11 板橋区こども動物園本園、高島平分園（受託 3年契約の3年目）



入園者数、ふれあいコーナー、引き馬、ニンジンあげとも減少している。繰返し来園して下さる方に新鮮さを感じていただくための工夫の必要がある。その一方で、前年度課題であった動物クラブの利用人数は本園、分園ともに増加しており、これは各スタッフが子どもたちとの関わりの中で伝えるべきこと、動物の世話を通して遅くなってほしいという願いが明確に表現できるようになってきたという変化によるところが大きいと感じている。「利用者、動物クラブの子どもたちとより多く接する」ため、いかにして効率的な業務の手順、方法を

工夫し、時間を作るかを考え続けた1年だった。

2-12 上千葉砂原公園ふれあい動物広場（受託 3年契約の2年目）

年間の利用者総数については10月の週末に雨が多かったことからその分のマイナス実績を他の月で埋めきる事ができず、若干の減少であった。

出張動物園、職場体験、動物愛護クラブ、ポニー教室活動、団体利用については昨年同様の活動を行ったところ、活動はより活性化した。

仕様書に沿って活動しているので、時間的には十分とは言えないが、短い時間の中で利用者が十分に満足できる内容のプログラムの提供が行われた結果であった。

「ヤギについて知ろう」と題したミニイベントを7年ぶりに開催したところ、利用者の反応も非常によく、引き続き来年度も企画・提案して開催していきたい。

2-13 海老名ふれあい動物施設（受託 1年契約）

引き馬、モルモットふれあいは前年度比で若干減少しているものの、総来場者数など、全体的には増加傾向にある。

連休中などの悪天候や気温の変動が5月・10月の利用者数減少を招いたと考えられるが、一方で、新たな教室の実施やイベントを増やしたことが、利用者数維持につながったと考えられる。

新企画には「おやこ de ポニーふれあい教室」があり、毎年、春休みに実施している未就学児を対象とした教室が人気(定員を100名以上超える応募がある)の為、新プログラムの教室を実施した。既参加者の要望を受けて、乗馬メインのプログラムを実施したところ、大変好評であった。

遠足などの団体利用、派遣出張の要請増加を見れば、「運動公園にポニーがいる」という海老名ポニー広場の認知度が上がってきているとの実感があるが、商業施設の応援団体や市議会議員支援会等、今までにない新しい催しへの参加が出来たのは、今年度一番の進歩であった。



3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

3-1 グランドポニースクール（新潟県長岡市）

9月8日から14日、9月24日から10月2日まで小学校、さいわいプラザ（地区公民館）等を6頭のポニーとカウンセラー、スタッフで回り、小学生から高齢者まで、大勢の方にポニーとのふれあい、乗馬を体験していただいた。9月24日には恒例のポニーカーニバルが行なわれ、ポニースクールかつしかの子ども達が軽乗演技を披露した。



3-2 帯広畜産大学馬介在活動

障がい者乗馬、軽乗、乗馬指導、馬事普及の講師として1年間、職員を派遣し、以下の事業を実施した。また、馬術部馬・外来傷病馬を除いた、馬介在活動室馬・繁殖実習馬の飼育管理・乗用馬トレーニング・傷病馬等の看護・管理等にも従事した。

○ 帯広市連携事業

障がい者乗馬（全14回）、不登校児対象の乗馬教室（全6回）、帯広少年院との連携事業（全1回）を行った。

- 大学行事

従来の全学農畜産実習乗馬体験、家畜生産学乗馬実習（全3回）、獣医学実習（全6回）に加え、10月初旬に開催された畜大馬フォーラムに実行・技術補助員として参加した。
- サークル指導

畜大内サークル“うまぶ”、RDA 畜大の練習の際、指導・監督に当たった。一度の落馬・事故もなかったことが大学より高い評価をいただいた。
- その他事業
 - ・豊頃小学校特別支援学級乗馬体験
 - ・下音更小学校特別支援学級乗馬体験
 - ・池田小学校特別支援学級乗馬体験
 - ・帯広盲学校乗馬体験
 - ・サークル（うまぶ）で帯広市内の小中学生を対象とした乗馬会を7回開催

3-3 治療的乗馬研究集会

特定非営利活動法人日本治療的乗馬協会が主催し、当団体を含め一般財団法人日本障害者乗馬協会、特定非営利活動法人 RDA Japan の3団体が共催して、2月24日・25日に 第13回「治療的乗馬」研究集会を開催した。その中の企画・運営に参画し、さらに動物広場における実践報告や三鷹市の取り組みなどの発表も行った。

3-4 馬から学ぶオリンピック・パラリンピック事業

三鷹市立第一小学校において、3年生90名を対象にポニー乗馬、世話を体験すると共に、馬という動物についての講義を4回実施した（4年計画の2年目）。

運動機能向上として、3年生の50m走のタイムが全体的に良くなった。ジャンプしてポニーに乗ることなど、次回までにより上手にできるようにと日常的に、そして放課後も積極的に体を動かす空気が生まれたことが瞬発力の向上に影響したと関係者の間では見られている。

また、総合学習の一環として『馬博士』という発表会を開催。ポニーへの、関心・探求心・好奇心・協調性も同時に養われる結果につながった。

3-5 HETI 講習会

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会は「障がい者の乗馬・ホースセラピー活動を支援するための事業」として HETI（教育と治療における馬に関する国際組織）から講師を招聘し、活動への理解醸成、人材育成を目的とする講習会を11月に3日間、3月に4日間、宇都宮の JRA 日本中央競馬会・馬事公苑で開催した。この講習会の企画・運営（馬匹の提供等）に参画し、受講生として職員を2名派遣した。

4. 川べり環境の整備及び活用の推進

4-1 カヤック教室・水辺でのプログラム

今年度も NPO 法人川に学ぶ体験協議会（RAC）事務局長でもある斉藤理事によるカヤック講習を平日の午前中に実施した。また、プログラムでの講師もお願いした。

2018年に RAC 全国大会を小貝川で開催することが決定したため、2017年12月に北九州で開催された全国大会に職員を2名派遣。NPO プロジェクト21、RAC と協力して、運営・実行委員会を設置し、開催に向けて準備を進めている。

4-2 河川騎馬パトロール

6/10、11/26の河内チャレンジスクール、8/22の小貝川リバーサイドEキャンプでパトロール活動を行った他、牧場近くの小貝川緑地周辺のゴミ拾い、草刈を通年実施した。

また、1/27の河川協力団体関東協議会関東ミーティングで活動紹介をした。

5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

5-1 モンゴル大草原乗馬交流

30年度の再開を目指し、企画をはじめた。これまでのモンゴルとの関係を再構築しながら、新しいパイプ作りも並行して模索した。訪問地、プログラム、パートナー、旅行社等々、再考していた結果、30年度はニューシリンインターナショナルとモンゴル文化教育大学、旅行社はHASという従来のネットワークで実施することとした。

5-2 日独青少年相互交流計画 2017



| | |
|------|--|
| 実施期間 | 29年8月10日～25日（15泊16日） |
| 参加者数 | 16名（参加者15名、引率1名） |
| 活動内容 | ・ケルン観光 ・ホームステイ ・トレッキング ・学校見学 ・さよならパーティ 等 |

○ 事業総括

参加者が15名と、例年の派遣の中では多くの参加者を得た。プログラムだけでなく、受け入れてくれる

学生との交流が参加者にとって違った価値観の人とふれあうことで積極性、多角的な物事の見方、ホスピタリティを強く養える機会となった。

○ 今後の展望

近年は、ドイツからの派遣者数に比べて日本からの派遣者数が少なく、今後の望ましい継続のためには、カウンセラーやジュニアカウンセラーへの呼びかけ、ブログやSNS、広場での広報、ドイツ交流に関心のある新たなパートナーの発掘、ドイツ大使館や観光局からの後援申請等、あらゆる手立てを実行し、日本側参加者を増やしていく。

5-3 日独乗馬交流

シュタインフルト群ヴェスターカッペルンにあるヴェルペ・ロッセ・ヴェルゼン乗馬クラブへ本場ドイツの軽乗を学びに行った。他にもメーテルンの乗馬クラブで一日軽乗修行など、「軽乗」を通し沢山の方々との出会い、日本ドイツ相互の交流の輪が更に広がる交流となった。

| | |
|------|--|
| 実施期間 | 30年3月26日 ～4月5日（10泊11日） |
| 参加者数 | 日本側11名（スタッフ1名、参加者9名、通訳1名） ドイツ側約20名 |
| 活動内容 | ・軽乗トレーニング、乗馬 ・ホームステイ、イースター体験 ・森の空中アスレチック体験 ・その他（町散策、買い物等） |



6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

6-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

月刊紙として発行した。(2,000部印刷)

サイズはタブロイド判とし、基本は4面(長期休暇前の6月号と12月号は6面)印刷。4面刷りの場合は1面と1面がカラー印刷。6面刷りの場合は1・3・6面をカラー印刷とした。キャンプに関心がある保護者層(20代~40代)が手に取りやすく、参加する子ども達が楽しめる内容にするため、写真を多く取り入れ、内容も毎月楽しめる様にシリーズものを増やした。

また、公益性を重視して記事の内容を作成し、収益性を重視するために蓼科と小貝川での事業、国際交流事業に多く紙面を割いた。



6-2 夏キャンプ募集チラシの発行

機関紙では触れられない各現場までのアクセスやイベントのお知らせを掲載する目的で発行。作成や印刷も各事業所で行うことで、増刷、修正、内容の変更についてタイムリーに対応することができた。作成の詳細については以下の通り。

- ① 蓼科ポニー牧場・・・通常営業案内および夏季予約
- ② 小貝川ポニー牧場・・・通常営業案内および「小貝川カヤック教室」の営業案内
- ③ 蓼科ポニーキャンプ・・・デイキャンプのご案内(三井の森に設置)

6-3 WEB 広報

(1) Facebook

新たなHPづくりの為の準備を始めた。素早い情報の変化に対応するため、自前でデータの上げ下げや内容の変更がシステムとスマートフォンに対応するなど時代のニーズに合わせていく事を計画した。幅広い層へむけた情報公開を更に進める。ハーモニセンターの公式ブログや公式Facebookとの連携も引き続き行っていく。手軽に更新・情報発信できる利便性を活かして情報発信に努めた。

(2) ブログの運営

事業所単位では、特に水元中央公園子ども動物広場、相模原麻溝公園動物広場の更新率が高かった。キャンプの告知はイベント開催毎に行い、他事業所では定期的に更新した。

(3) ホームページ

ホームページからの事業申込み(現在のところキャンプ、ドイツ中心)が全体の8割近くになり、素早い情報の変化に対応する必要が高まった。従来のホームページで出来なかった、自前でデータの上げ下げや内容の変更がシステムとスマートフォンに対応するなど世間のニーズに対応する新しいホームページ作りを計画した。幅広い層へむけた情報公開を更に進める。新年度夏の事業受付からの更新を目指す。

7. その他

7-1 規程変更

旅行業登録、新拠点開発のため、定款の事業に旅行業、旅館業を加えた。また、法改正、職員実態に併せて就業規則、賃金規程を変更した。

7-2 馬の管理

財団所有馬84頭、行政(板橋区・海老名市)より預託馬6頭、東京大学より初期調教の依頼にて預託馬3頭、全93頭を管理。若馬1頭と即戦力1頭を購入。3頭の高齢馬が死亡。3頭を売却。

ポニーステイ事業として、伊那小学校、高島小学校（何れも長野県、公立）に無償貸与した。

7-3 人材育成

① ポニーキャンプカウンセラー募集

カウンセラーの募集は昨年度と同様にホームページを中心に行った。大学生のライフスタイルに合わせ、小規模説明会を5、6月の間に4回実施。加えて麻布大学（51名登録）、日本大学（32名登録）での訪問説明会を実施。また動物専門学校TCA（32名登録）、中央動物専門学校（登録なし）での訪問説明会も実施した。

○ インターネット募集情報掲載：アクティボ、ボランティアプラットフォーム

○ 大学・専門学校募集ポスター掲示 72校掲示

小規模説明会は間口を広げるため、冬前も1回ずつ実施。カウンセラーの登録に繋がった。また、インターネットではアクティボでの募集を開始。大学での訪問説明会は1校増やし、ポスター掲示も8校増。

② 登録カウンセラー数（30年3月時点）

| 継続登録者数 | 新登録者数 | 合計 |
|--------|-------|-----|
| 80 | 185 | 265 |

○ 総評

大学・専門学校での授業の時間をもらっての説明会の実施が好評で登録増につながった。今後も学校での説明でより多くのカウンセラーに登録してもらいたい。登録のみで参加に繋がらない学生も多く、研修への参加を促していきたい。研修は回数を減らし、一回の参加人数を増やして効率をあげるということを目指した。来年度以降は様々なアクティビティで、効率的に実施していきたい。

夏前にリスクマネジメントの観点から普通救命救急講習会を実施した。スキルアップと共に、有資格者を有することで団体の安全へのアピールにもなる。今後も継続して実施して行きたい。

また、今年度もSAN（Social Active Network of outdoor education：野外教育に携わる団体の中堅スタッフによる任意団体：山本所属）の企画にも参加。新しいスキルを得ると共に、モチベーション向上にも繋がった様子。今後も積極的に外部の研修に参加させていきたい。

○ 課題、将来展望

夏キャンプの質を保つためにも夏前の蓼科での研修に多くの新人カウンセラーが参加するように促していくことが必要。

7-4 新拠点

相馬に代わる首都圏100km圏内の拠点、小貝川ポニー牧場の活性化、安定した経営基盤作り、新規受託といったキーワードでアンテナを張り、いくつかの試みを行なった。

小貝川では、キャンプ実施時の宿舎とすべく、5月に牧場から2kmほどの場所に一軒家を借りたが、住宅から簡易宿所（旅館）への用途変更ができなかったことに加え、キャンプ宿舎としての使用を地域住民に受入れてもらうことができず、以後資料庫として使用している。

一方、新たなキャンプ地、牧場候補地として職員個々の伝手も辿りながら、茨城（五市町）、千葉（三市）、山梨（一村）を見てきたが、千葉県勝浦市では、官民揃っての歓迎をいただいて30年度のキャンプ実施に結びつくこととなり、茨城県河内町では廃校活用事業者募集に応募した。

新規受託については、和歌山県の動物園が1月に行なった管理運営事業者プロポーザルに参加したが、現地から近くで活動する他の事業者が受託することとなった。このプロポーザルには、31年度に指定管理者としての更新を迎える目黒、相模原の職員が事業計画書作成段階から関わり、次につながる貴重な経験を得られた場となった。

7-5 会議等

- ① 理事会・評議員会
 - 第1回理事会 (5/30)
 - 1 平成28年度事業報告案・収支決算案の件
 - 2 定時評議員会開催の件
 - 2 役員改選の件
 - 4 賃金規程改定の件
 - 定時評議員会 (6/17)
 - 1 平成28年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認の件
 - 2 評議員・役員改選の件
 - 第2回理事会 (6/28)
 - 1 代表理事・業務執行理事選定の件
 - 2 顧問税理士変更の件
 - 3 役員報酬決定の件
 - 第3回理事会 (9/26)
 - 1 各理事の業務分担の件
 - 2 役員報酬の件
 - 3 平成28年度未精算仮払金の件
 - 4 旅行業登録の件
 - 5 定款変更の件
 - 6 評議員会開催の件
 - 臨時評議員会 (10/14)
 - 1 定款変更の件
 - 2 役員等報酬規程変更の件
 - 3 役員報酬総額の件
 - 第4回理事会 (3/18)
 - 1 平成30事業計画案、予算案の件
 - 2 就業規則・賃金規程一部改正の件
 - 3 H28年度未精算仮払金の件
 - 4 平成30年度人事配置の件
 - 5 2020年東京オリンピックユースキャンプの件
 - 臨時評議員会 (3/24)
 - 1 平成28年度未精算仮払金の件
 - 2 平成30年度事業計画案、予算案の件
- ② 委員会
 - キャリアシート作成委員会
6/19、7/18、9/12
 - 新拠点委員会
11/21 勝浦市下見
2/21 銚子市下見
 - 人事・採用・研修委員会
11/16 前年度採用振り返り
- ③ その他
 - 役員等選定委員会 (6/14)
 - 新年互礼会 (1/15)
 - 入職式 (4/1)
 - 場長会議 (4/24、6/5、7/10、
10/10、12/4、1/30、2/22、3/6)
 - ふれあい会議 (8/29、3/12)
 - 展示会議 (2/20)



【会員数】

28 年実績 賛助会員 A 496 世帯 1,619 名
賛助会員 B 127 名
団体会員 2 団体

29 年実績 賛助会員 A 594 世帯 1,859 名
賛助会員 B 85 名
団体会員 0 団体

(いずれも 12/31 の数字)